

「『育成を目指す資質・能力』の三つの柱を踏まえて行う教育目標の設定・見直し」について

新学習指導要領解説 総則編 第3章2節 「1 各学校の教育目標と教育課程の編成」より

- ・各教科においても、当該教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理し、当該教科等の目標及び内容を明確にした。
- ・各学校において、教育目標に照らしながら各教科の授業のねらいを改善したり、教育課程の実施状況を評価したりすることが可能となるよう、教育目標は具体性のあるものが求められる。
- ・学校教育全体及び各教科等の指導を通じてどのような資質・能力の育成を目指すのかを明らかにしながら、実態やねらいを十分反映した具体性のある教育目標を設定することが必要である。

各学校においては、今回の学習指導要領の改訂に伴い、これらを視点として改めて、学校の教育目標が実質化、実効性のあるものとして機能しているかを確認してみてください。

大切なのは、拙速に「学校の教育目標を変える」ことではなく、子どもの姿から明らかになる育成を目指す資質・能力を踏まえつつ「学校の教育目標を明確にする」ことです。

このような見直しを行うのは、各教科等の指導により資質・能力の確実な育成を目指すとともに、日々の実践が学校の教育目標の達成に向かっていることをこれまで以上に意識にするためです。

〔知識及び技能〕 ※3年生の例

国語	社会	算数	理科	音楽	体育	道徳
考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解すること	生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること	等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること	生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。また周辺環境と関わって生きていること	呼吸及び発音の仕方に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌う技能	ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって易しいゲームをすること	(※道徳的価値についての理解)

学校として育成を目指す〔知識及び技能〕

(例) 物事の間係を捉えたり、それを生活の中で使ったりすることができる力

・授業を実践する先生方は、実施した授業が、「学校として育成を目指す資質・能力」の育成につながったかを評価するとともに、課題がある場合には、改善することが求められます。

・「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」についても同様であり、このような学習指導要領の記述(前スライド)を理解した上で、学校の教育目標を設定することが大切です。



つまり、こうした三つの柱に沿った見直しのプロセスが、子どもたちに資質・能力を確実に身に付けさせることにつながっていきます。

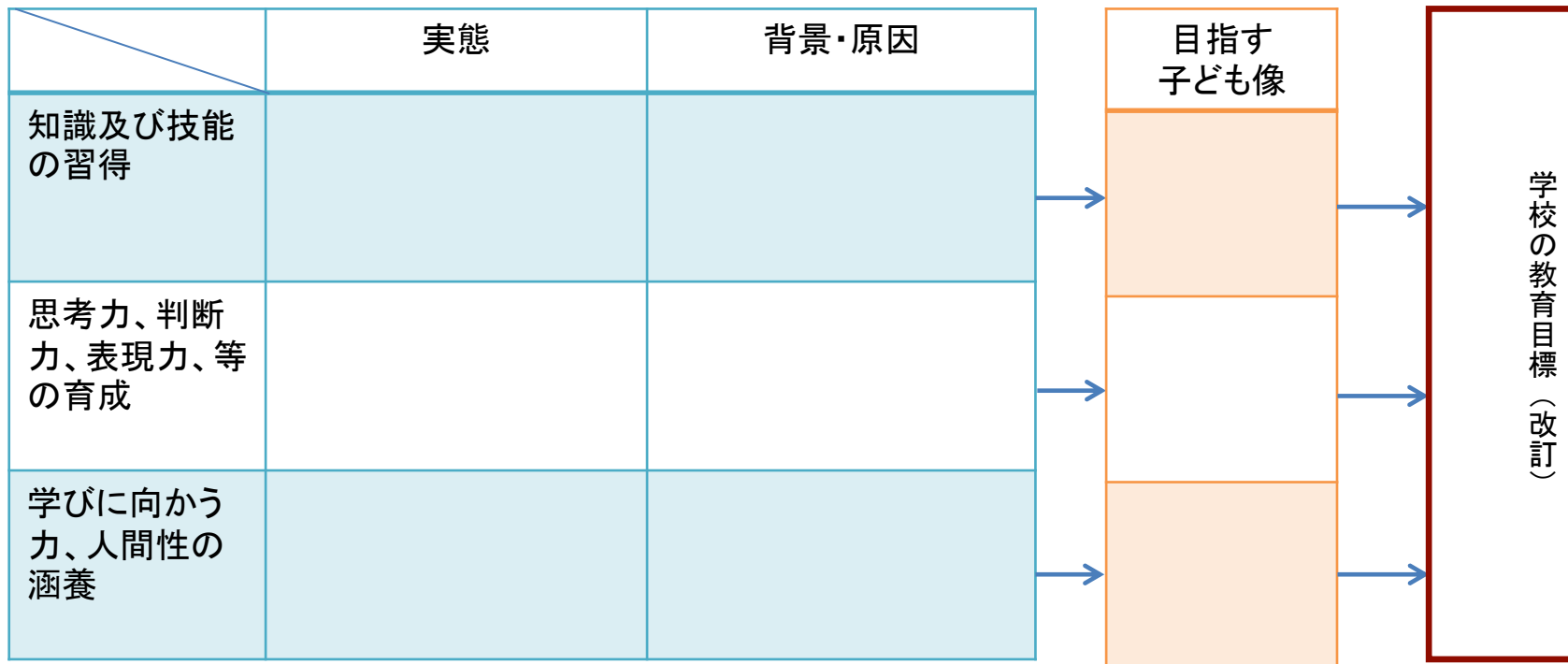
そこで大分県教育委員会作成「新学習指導要領への移行スタート」では、「学校教育全体や各教科の指導を踏まえて育成を目指す子どもの姿」を三つの柱で再整理する【例】を2つ示しています。下記にシートを付けていますので、ご活用ください。

【見直し例】1 現行の学校の教育目標の見直しから目指す子ども像を考える
(※現行の学校の教育目標が「知」「徳」「体」で構成されている場合)



このシートを用いると、「知・徳・体」で設定されている現在の教育目標を、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理した上でより明確にすることができます。

【見直し例】2 子どもの実態や教師の願いから目指す子ども像を考える



このシートは、子どもたちに育成すべき資質・能力を実態や背景に沿って整理した上で、それを踏まえて、学校の教育目標を改めて設定するのに効果的です。また、これらは参考例ですので、他にも、目指す子ども像を最初に位置付け、そこから「具体的な方向性」を考えるなどの方法も考えられます。



- ・「学校の教育目標の文言の中に必ず資質・能力という言葉を入れなければならない」ということや「現在の教育目標の変更が必要である」ということではありません。
- ・まずは、学校の教育目標を通しながら、校内で新学習指導要領を読み合わせてみてください。今回の改訂に関わってこれまでの考え方を転換する必要性がある部分が、各学校の実態に応じて見えてくると思います。